原発0（ゼロ）にむかって

2012年6月6日 No.21

http://www.tokyominiren.gr.jp/

編集・発行／東京民医連事務局　tel：03-5978-2741　fax：03-5978-2865　mail：sien@tokyominiren.gr.jp

「大田からの原発ゼロアピール」をよびかけ

―人類と共存できない原発を一日も早くなくし、自然エネルギーへの転換を―

大田区では「原発ゼロアピールおよび自然エネルギーへの転換を」の事務局がつくられ、幅広く訴え運動をすすめています。発足はじめに呼びかけ人が集まり記者会見を行い朝日新聞などに取り上げられ、現在では区内の著名人、作家・画家・弁護士・医師・住職・歌手など110名を超す呼びかけ人となっています。あらゆる団体・個人へ賛同していただくための運動をすすめ、そのなかで病院・開業医へは600通以上の手紙を出し、これまで全く繋がりのない14の病院の院長･開業医の所長から「自然エネルギーに転換し穏やかな地球に」「利己的な資源利用を反省し世界に向けエネルギー問題でリードすべき」など賛同のコメントが寄せられました。

先日行われた「呼びかけ人会議」で参加者より、いま行動を起こすことが必要、ということとなり6月2日に区内ＪＲの駅頭でアピールを行いました。今後の大きな運動に繋げる予定です。（城南福祉医療協会　土井）

２日ＪＲ蒲田駅前宣伝にて。
署名に応じる若い夫婦

大田からの原発ゼロアピール

――人類と共存できない原発を一日も早くなくし、自然エネルギーへの転換を――

二〇一二年三月八日

二〇一一年三月一一日の東日本大震災による東京電力・福島原発事故は、大量の放射性物質を空中に十七日に海中にまき散らし、自然環境・生物に甚大な被害をもたらし、事故の原因のほとんどが未解明であり、放射能汚染がどこまで広がるのかもわからない事態に陥っています。

福島県では、会津など県外の六万人を超す避難者を含め一六万人を超す方が避難生活を送りながら、安心して子どもを産み育てられるあたりまえの生活をとりもどすために力を合わせています。農漁会では、すべての原子炉の廃炉が全会一致で決議されました。

放射能汚染による、子どもと国民の健康被害と不安、農業生産物への被害、漁業産物への被害、地場・地農産業の崩壊などにより日本の工業生産にも影響を与え、あらゆる産業に深刻な影響を及ぼしています。しかも、原発による大量の放射性廃棄物を確実に閉じ込め、処理をする技術さえまったく未完成です。

こうした事態を目の当たりにし、世界で「原発に依存した エネルギー政策を、この機会に「自然可能エネルギー」への大胆な転換を」の流れが強くなり、ドイツでは二〇年で全一七基の原発を停止し、スイスも全ての原発を廃止していくのに、「原発からの脱原発・自然エネルギー」への転換に向け、対話と共同を地域や職場の中で起こすことを医師のみなさんにお願いします。

《第一次　呼びかけ人》五十音順　二〇一二年三月七日現在

石井英雄（会長事生協）
江口幸好（児童文学者）
大石又七（第五福竜丸被曝者）
小佐野茂（天王洲社会保障推進協議会会長）
桂　敬一（東邦音楽大学長・マスコミ九条の会よびかけ人）
呉　光雄（東邦音楽大学長・マスコミ九条の会よびかけ人）
鶴司邦男（元大田民主商工会会長）
小泉和子（母和のくらし博物館館長）
香田一柴（元大田医労協支部顧問・元大田労協理事）
小林研一（元蒲田歯科医師会会長）
小側庶彦（蒲田歯科医師会会長）
椎名光夫（医師・城南福祉医療協会理事長）
佐伯正陸（税理士）
坂井興一（東京弁護士会人権擁護委員会委員長）
佐藤和則（東京都都市生活環境部理事）
佐藤大助（元大田区医師会副会長）
沢浦彩子（大森中診療所所長）
柳田章子（文芸評論家）
嶋田　実（大田老人クラブ連合会会長）
田村　恵（大田病院院長）
増岡裕紀（ソプラノ歌手）
長尾時子（東京都保険医協会事務所事務局長）
鍾田　恂（東京保険医協会理事）
両角宏輝（弁護士）
丸茂勇夫（元日本共産党議員団長）
三尾静雄（三尾眼科作所会長）
美馬　清（大田区商工会議所副会長・元大田区議会議員）
吉原　毅（城南信用金庫理事長）

連絡先　大田区千島一三一一〇一二〇五　荒川方　電話　五四八一二五二二

「立川健康まつり」記念講演で放射線の影響を学ぶ

５月13日（日）に十数年ぶりに開催した「立川健康まつり」の記念講演として、日本大学准教授の野口邦和氏に「放射線の影響とその予防」との講演をしていただきました。150人超の方が熱心に聞き入りました。

野口さんはやみくもに放射能の危険性を煽るのではなく、3.11 以降頻回に使用されたあの単語「ベクレル」と「シーベルト」の違い、「半減期」の意味など正確な説明をされ、参加された方からは、「とてもわかりやすかった」と評判でした。

つづいて参加者が一番聞きたい私たち人体への影響について話しを移し、「放射性セシウムは土に吸着し、深く浸透しないので表面を削ることでかなり除染できる」「野菜などは水で洗い流すことでかなり放射性物質を落とすことができる」「福島県の稲で放射性物質が出ているのはほんのわずか。土壌から稲へ放射性物質が移行するのはごくわずか」など具体的に放射線から身を守る方法を教えていただきました。

福島の農家の方などが苦しむ風評被害も国民の多くが冷静に考え、行動すればなくすことができると思いました。信用されない政府やマスメディアの責任は重大です。

（すながわ相互診療所　山根　浩）